

大学 ジャーナル

FREE

vol.148 7月号

第27巻3号・通巻148号

発行所:くらむぼん出版 〒531-0071 大阪市北区中津1-14-2
TEL06(6372)5372 FAX06(6372)5374

E-mail KYA01311@nifty.com

大学ジャーナル

UNIVERSITY JOURNAL
ONLINE

http://univ-journal.jp



Highlight

03 トピックス

大阪大学大学院情報科学研究科
創設20周年の節目の
新たなキャッチコピーは
「情報科学で社会の
分断をつなぐ」

04 デキル! 学科

武蔵野大学工学部
サステナビリティ学科
人を動かし、
社会を変える力を
身につけるために

05 連載 16歳からの大学論

「あなたのビジョンは何?」
と聞かれて
京都大学准教授 宮野公樹 先生
連載 雑賀恵子の書評
「イスタンブールで青に溺れる」
横道誠

06 大学ジャーナルオンラインから

08 生涯探究。

まずは自分が楽しいと思え
ることに夢中になろう
京都産業大学教授 鈴木康久 先生

147号の「本のプレゼント」は締め切ら
せていただきました。当選者の発表は、
発送をもって代えさせていただきます。
多数のご応募ありがとうございました。

企画・広告のお問い合わせは

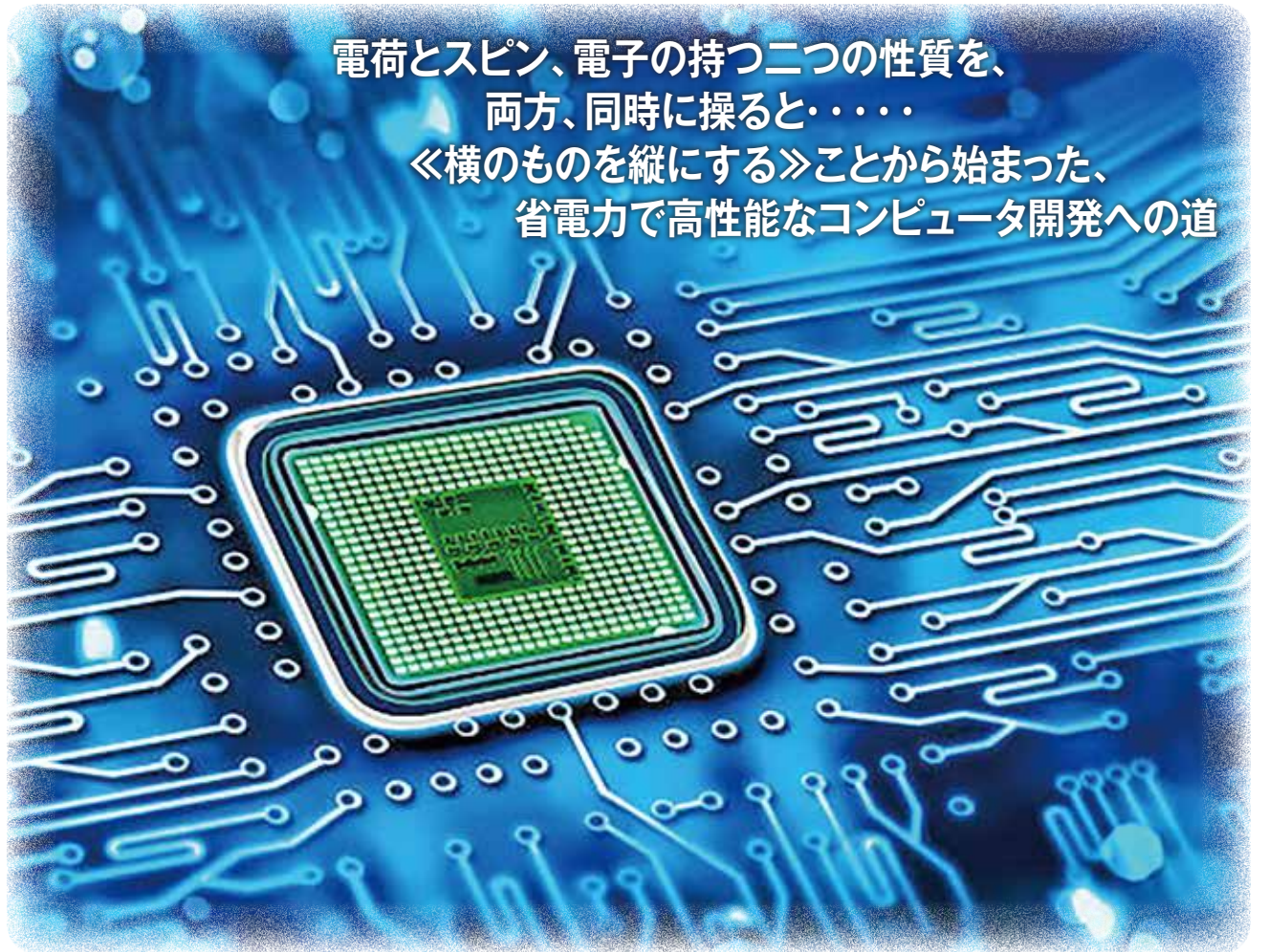
UNIVERSCAPE

ユニバースケープ(株)

info@universcape.co.jp まで

大学トップ、日本を代表する研究者から高校生へのメッセージ 東北大学総長 大野英男先生

スピントロニクスとは?



電荷とスピン、電子の持つ二つの性質を、
両方、同時に操ると……

《横のものを縦にする》ことから始まった、
省電力で高性能なコンピュータ開発への道

半導体不足が、車や電気製品の製造に影を落としています。これは国内の製造拠点が縮小する中、コロナ禍で海外からの供給が滞ったことも一因と言われています。かつては「産業のコメ」とも言われ、その生産がお家芸とも言われていた日本。これを期に、国も企業も国内生産体制の再構築に乗り出しています。

半導体の技術開発に、初期の段階から今日まで大きく貢献してきた大学の一つが東北大学。戦前から金属材料や電気通信分野に強みを持っていましたが^{※1}、戦後、その伝統を受け継いだのが「ミスター半導体」と呼ばれた西澤潤一(1926年～2018年)第17代総長。「光通信の父」、日本の光通信の生みの親でもあります。フラッシュメモリ(半導体メモリ)の開発者 舩岡富士雄(1943年～)教授はその学生。また1977年に、岩崎俊一(1926年～)教授が提唱した垂直磁気記録方式は後にハードディスクとして実用化されました。そして21世紀に入り、スピントロニクスと言われる新しい分野で、基礎研究から応用技術の開発まで、数々の業績を上げてこられたのが第22代総長の東北大学大野英男先生です。

スピントロニクスとは、スピンとエレクトロニクス(電子工学)から生まれた造語で、電子の持つ電荷とスピンの両方の性質を同時に使うための研究と技術。大野先生によれば、自分の研究は、「磁性を持たない半導体と磁性体(磁石)を物質レベルで融合し、磁性を持つ新しい半導体を創成し、その現象を解明する基礎的研究と、磁性体の素

子と半導体素子とを組み合わせた集積回路を作る応用的研究」の両輪で進めてきたとのこと。それをプロセッサ(CPU:中央演算処理装置)やメモリー(一次記憶装置)に使うと、電源を切ってもデータが消えない(《不揮発性》)ことから待機電力を0にでき、しかも書き込み・読み取り速度が早いことから、これまでのコンピュータの100倍以上の省エネルギー性能が得られるとされます。省電力かつ高性能で、脱炭素社会へ向けての有力な技術と期待されています。

技術的ブレークスルーは、普通では横になる電子のスピン(磁気の向き)を基板の面に垂直に揃える、つまり「横のものを縦にする」ことだったと大野先生。当時は、デバイスの性能を向上させるために絶縁体を挟む新たな垂直に揃える材料が世界的に探索されていたが、なかなか思った成果が出なかった。そのような中、大野先生は、誰もが使っていた一般的な材料を別な目的で《システムチックに薄く》していったところ、ある薄さで磁気が自然に垂直に揃ったのです。同じ頃、「磁気の向きが垂直になった!」という学生の報告を信じなかった海外の研究仲間もいたそうで、「思い込みとは本当に恐ろしい。そして何よりもみんなが求めていたものを、一般的な材料でできることを示せたのが大成功」と大野先生。

「《横のものを縦にする》とは、岩崎先生が垂直磁気記録方式を提唱した時にも言われていたこと。また半導体と磁性体を掛け合わせた研究は西澤先生にもつながる」と、大野先生は感慨深

げ。

2010年、大野先生は論文を投稿するとともに、ライバルに先駆けること3ヶ月、スピントロニクス技術を応用した磁気抵抗ランダムアクセスメモリー(MRAM)の基本構造に関する特許を申請。その後それは世界標準の材料系となり、2018年ごろからは本格的に実用化が始まりました。研究室を受け継ぐ深見俊輔教授らは今、大野先生の研究を発展させ、脳のように柔軟な情報処理のできるコンピュータや、超難問を手軽に解けるコンピュータなどへの応用も進めていて、日本の半導体集積回路の新展開になるのではと期待されています^{※2}。

「研究には、ものの詳細を理解するために本のページを一枚々々めくっていくような楽しさがある基礎研究と、がん研究のように、明確な目的の下にその実現を目指すものがある。前者には目標も期限もなく、後者は厳しい競争に曝される。しかしどちらも成果を人に先駆けて示さなければいけないことは一緒。負けた時は口惜しく、勝った時は大きな達成感を得られる。私はその両方を経験できて満足。磁性体を薄くしていく時には、まさに前者の研究が活きた」と大野先生。

※1 1916年、東北帝国大学理科大学(後の東北大学理学部)に臨時理化学研究所第2部が、磁性銅であるKS鋼の発見で知られる本多光太郎博士を研究主任として発足し、後に金属材料研究所となる。また1919年には工学部電気工学科が、1935年には電気通信研究所(RIEC)が開設されている。

※2 この3月、深見俊輔教授は、「人工制御による物質・材料の「知能」の発現とコンピューティングへの展開」というテーマで、稲盛科学研究機構(InaRIS)フェローに選出された。スピントロニクス技術に立脚した新規コンピューティング開発を世界的にリードしてきたことも高く評価されていることだ。

創立115周年 総合大学100周年を迎える東北大について語る



東北大学総長 大野 英男先生

Profile

1982年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。1982年北海道大学工学部講師、1983年北海道大学工学部助教授、この間に1988年～1990年 アメリカ合衆国IBM T.J.Watson Research Center客員研究員。1994年東北大学工学部教授、1995年東北大学電気通信研究所教授(2013年～2018年 所長)。あわせて2010年東北大学省エネルギー・スピントロニクス集積化システムセンター長、2010年東北大学原子分子材料科学高等研究機構主任研究者、2012年東北大学国際集積エレクトロニクス研究開発センター教授、2016年東北大学スピントロニクス学術連携研究教育センター長。2018年から現職。専門分野:スピントロニクス、半導体物理・半導体工学。北海道札幌南高等学校出身。



片平キャンパス(提供:東北大学)

「研究第一」「実学尊重」 「門戸開放」 3つの建学の理念を 今に伝える国立大学

日本の産業競争力の低下を受け、大学の研究、中でもイノベーションにつながる研究に改めて大きな期待が寄せられています。

本学は1907年、東京大学、京都大学に次いで3番目の国立大学として設立されましたが、最初に、「研究第一」を掲げた大学でもあります。すでにご紹介した半導体や電気通信に関する研究だけでなく、金属工学や医学など自然科学分野で輝かしい実績を積み重ねてきました。

これらの研究成果は本学のもう一つの理念である「実学尊重」をそのまま具現化したものです。「実学尊重」は「社会価値の創造につながる学問」という意味ですが、まさにこれは、今求められているイノベーションにつながる研究でした。科学の新発見・新しい技術の開発によって社会に新しい価値をもたらすのです。

また人文・社会科学系について言えば、本学は1922年、法文学部を設置して総合大学になりましたが、ここからは国際司

法、国際海洋法、国際刑事の3つの国際裁判所の判事を輩出しています。これは世界的にも珍しいことだと言われています。

本学のもう一つの理念である「門戸開放」は、今日的な文脈ではダイバーシティの尊重と言えます。東北大学は1913年に日本で最初に3名の女子学生を受け入れた国立大学です。日本の国立大学は今、東京大学や京都大学をはじめ、女子学生比率や女性教員比率をなんとか高めようと努力しています。本学の場合、現在の女子学生比率は30%、女性教員比率は約20%に近づいていますが、まだまだ物足りないと感じています。個人的には、自然な姿はいずれの指標においても50%前後だと考えています。

学生や教職員の受け入れにおいても、ダイバーシティで先駆的な大学です。中国の小説家、思想家の魯迅(1881年～1936年)が、本学の前身である仙台医学専門学校に留学生として在籍していたことはあまりにも有名です。また国内においても、帝国大学には旧制高校からしか入学できなかった時代に、それ以外のルートからの進学を許可しました。その中から、茅誠司(1898年～1988年 第17代東北大学総長)や松前重義(1901年～1991

年 東海大学創立者)などを輩出しています。最近では『ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DEI: Diversity equity & inclusion)推進宣言』を发出して、さらなる多様性、公正性、包摂性の尊重と、それらの力を信じることをアピールしています。

東日本大震災の経験が 部局間の連携を強め、 コロナ禍の迅速な 対応につながった

11年前の東日本大震災では本学も大きな被害を受けましたが、それは本学が変わる転機にもなったことは確かです。最初の頃の帝国大学は、その下に理科大学や医科大学を擁していました。また明治や大正時代にできた単科大学や専門学校が、その後統合されたケースもあります。これが一般的な学校との違いで、大学以下の教育機関からは理解しにくい一つの側面になっているようです。多くの大学では、学問の仕方も異なることもあり各部局(学部などの教育・研究組織)の独立性を重んじた気風が残っています。

本学は、東北帝国理科大学、医科大学などからスタートしました。そのため大学のトップは、学長ではなく総長と呼ばれます。しかしグローバル化が進み、社会の諸課題が複雑になると、学部や専門領域を横断した取組が、これまで以上に求められます。

東日本大震災は、こうした中で大学が横につながる大きなきっかけでした。急務だった沿岸部の救援、復興には各部局が真っ先に横につながりました。各教員の専門を超えて求められることが多く生じたため、必然的に様々な形で横のつながりが生まれたのです。その結果、学内には自然発生的に100を超えるプロジェクトが生まれ、その後大学としても8つの復興アクションをスタートさせて、復興と新生に向けた重点研究の推進と社会実装を継続して進めてきました^{※3}。

コロナ禍に見舞われた2020年春には、この部局横断的な取組の経験が活かされました。アルバイトができず困窮する学生への給付はもとより、上級生が、大学生

活に不慣れた新入生を様々な側面からサポートする『ピアサポーター制度』を4月に作り、約2,300人のサポーターが集まりました。また同時に、全学生に『アドバイザー教員』を配置しました。その結果、学生が多くの問題を抱えがちなコロナ禍にあっても、本学は2020年から2021年度の退学率を平年並みに抑えることができました。ピアサポーターは、今年度も約2,500人が登録されていて、約2,500人の新入生に対応できるようになっています。

^{※3} 2021年4月、これまでの活動や東北大学版SDGsである、「社会にインパクトある研究」の30プロジェクト等の取組をさらに発展させ、新たに「Green Technology」、「Recovery & Resilience」、「Social Innovation & Inclusion」の3つの柱のもと、大学の総合力をもって全学組織的に社会課題の解決に挑み、グリーン未来社会の実現に貢献することを目的に設置された。

東北大学のDX 「東北大学ビジョン2030」を アップデートし、「コネクテッド ユニバーシティ戦略」を策定

コロナ禍ではデジタル化も一気に進みました。大学業務の《印鑑フリー》《動き場所フリー》《窓口フリー》の体制が整い、教職員は、必要なら100%在宅勤務ができます。2020年7月には、「東北大学ビジョン2030」をアップデートし、デジタル技術を使った「コネクテッドユニバーシティ戦略」^{※4}を策定しました。いわゆる大学DXで、サイバー空間での本学のさらなる広がりを目指すものです。こうした場を提供することで、学生・教職員が距離、時間、国や組織、文化や価値観を超えて成長してもらいたいと考えたのです。

大学は一つのコミュニティです。かつては閉ざされた社会と言われてきましたが、これからは、ある意味で社会のロールモデルを目指すべきだと考えています。ウクライナ支援も、国際社会や自分たちがこれから作り上げていく社会を考える契機となると思います。女子学生や女性教員の割合を増やすのもその一つ。最近では、本学独自に男性の育児休暇制度も整備しました。大学は、本来あるべき社会のあり方を示し、その実現を目指していると感じてもらえるようにしなければなりません。これも「門戸開放」の一つだと考えています。



青葉山新キャンパス(提供:東北大学)

※4 「サイバー空間とリアル空間の融合的活用を通して大学の諸活動を拡張し、ビジョン2030の実現を加速」とある。「第一に距離・時間・国・組織・文化・価値観などの壁を越え、本学が社会、世界とダイナミックに繋がることによってこれまで以上に自由度の高い学びと知の共創を可能にする大学として飛躍する。第二にコロナ禍で顕在化した社会の分断や格差を越えてボーダーレスかつインクルーシブに世界を繋ぐ新たな大学像を確立することを指向する」として教育、研究、社会との共創、大学経営のそれぞれの観点から変革のための施策が紹介されている。

国立大学の入試改革をリード 学力重視のAO入試に よる入学者は30%に

2000年にAO入試を導入。20年以上かかりましたが、昨年、その割合が30%に達しました。本学で学ぶのに必要な基礎学力を問うのに加えて、自身のやりたいことと本学で学ぶ強い意志を問うもので、すでに「学力重視のAO」と広く認知されているようです。長年に亘って、AO入試で入学してきた学生の成長を追跡調査してきましたが、大学における様々な活動場面で、彼らは意欲ある集団を形成し全体を牽引してくれているようです。本学が、先頃の大学入試改革、高大接続改革への対応で慌てることがなかったのはこのためでもあります。もっとも総合型選抜は選考に手間がかかるため、入学希望者全員を対象にすることは現状ではできません。また一般選抜を残しておくことは、社会との間接的な対話という意味でも、一定の意義があるとも考えています。

好きなことを追求し、 考えることを好きに なってほしい 高校生へのメッセージ

好きなことは問いません。スポーツでも読書でも、みなさんの周りに無駄なもの



次世代放射光施設完成イメージ図(提供:一般財団法人光科学イノベーションセンター)



真空中で薄膜を形成・加工するための超真空スパッタリング装置(提供:東北大学)

のは何一つないと思います。大事なことは、それに熱意を持って一生懸命取り組むことです。

考えることもたくさんあります。「なぜこういう現象が起こるのか」「その背景にはどんな構造があるのか」「スポーツなら「こんな動きはどうすればできるのか」、また社会の仕組みや構造、起きている事象の背景などについて考えるのもいいでしょう。あるいは、自然をそのまま受け止めて別の形で表現してみる。とにかく考えること、そしてそれを楽しんでほしいと思います。

みなさんの探究活動も、「教えられている」と思うと《つまらない》が先に立ち、問題意識もあまり高くないかもしれません。それよりむしろ、好きなことに、「もっと知りたい、もっと別なアプローチはないか、別の解決ルートはないか」などと考えていく方が楽しいのではないのでしょうか。

高校時代にこうした習慣や姿勢を身につけておくと、大学に入学した後にさらに大きく飛躍できます。大学が提供する場を120%活用でき、その後の人生もずっと豊かなものになるに違いありません。



「スピントロニクス」を学べる大学・研究室

大学名	学部	研究室詳細	QRコード
北海道大学	工学部/ 情報科学院	ナノ電子デバイス学研究室 https://www.ist.hokudai.ac.jp/labo/nanodev/	
東北大学	工学部/ 材料科学総合学科	水上研究室 https://www.wpi-airm.tohoku.ac.jp/mizukami_lab/index.html	
筑波大学	数理物質科学研究群	大野研究室 http://www.bk.tsukuba.ac.jp/~oono/	
東京大学	工学部/ 電子情報工学科	田中・大矢・中根研究室 http://www.cryst.t.u-tokyo.ac.jp/	
東京工業大学	理学院/ 物理学系	佐藤研究室 https://satoh.phys.titech.ac.jp/	
慶應義塾大学	理工学部/ 物理学科	能崎研究室 http://www.phys.keio.ac.jp/guidance/labs/nozaki/index.html	
京都大学	工学部/ 電子電気工学科	白石研究室 https://cmp.kuee.kyoto-u.ac.jp/member.php	
大阪大学	基礎工学部/ 基礎工学研究科	浜谷研究室 http://www.semi.ee.es.osaka-u.ac.jp/hamayalab/index.html	
九州大学	工学部/ システム情報科学研究院	湯浅研究室 https://mag.ed.kyushu-u.ac.jp/index.html	

トピックス

大阪大学 大学院情報科学研究科 創設20周年の節目の新たなキャッチコピーは 「情報科学で社会の分断をつなぐ」

情報科学技術の専門家が、分野を超え結集して20年。 本格的なDX時代に向き合い、豊かな未来社会の実現に貢献することを目指す。

2002年4月に、工学研究科、基礎工学研究科、理学研究科に分散していた情報およびネットワークの技術に関連する教育研究組織を改組・再編して創設された大阪大学大学院情報科学研究科。以来、世界を視野に、情報科学技術の新たな学問領域を開拓し展開してきた。

創設20周年を迎えた今年からは、新しいキャッチコピーを掲げ、より高度で豊かな社会の実現へ向けての貢献を目指す。

「《社会の分断》に目を向けたのは、21世紀になっても、国家間の戦争や内紛は収まらず、貧富の格差も一向に解消しないから。加えて情報化の急速な進展で、新たな分断の兆しささえ見え始めている。

情報科学は、データから意味を見出して情報を取り出し、それを価値に変え知識を生みながら、それを活用する知能へと進化し続けてきた。そのポテンシャルをこれら分断の克服に活かしたい」と研究科長の村田正幸先生。「多様性を認める社会では、意見の対立は当然だが、それが分断につながるのとは避けなければならない。求められるのはコミュニケーションの力。情報科学は、そのためのテクノロジーの一つだから、研究を通じて分断をつなぎ、より豊かな社会を未来に届けることに貢献したい」と決意を新たにしている。情報科学研究科では、そのためには、社会から認知され理解されることも必要と、新たに広報戦略企画室を立ち上げ、教育

研究活動、社会連携活動を積極的に紹介していくとしている。具体的には、「情報科学研究科3Dバーチャルマップ」(写真)

「情報科学研究科教員によるミニ講義」「Twitter、Facebookでの情報発信」などが、すでに展開され始めている。



デキル!学科 武蔵野大学工学部サステナビリティ学科(2023年4月開設)

人を動かし、社会を変える力を身につけるために

武蔵野大学工学部は来春、環境システム学科を改組して、日本で初めて「サステナビリティ(持続可能性)」を学科名に冠した新学科を開設する。今なぜ「サステナビリティ学科」なのか、設置の背景やその学びについて、学科の将来を担う明石修准教授と伊尾木慶子講師(いずれも環境システム学科所属)お二人の話を交えて紹介する。

東京中に人と自然の共生の場をたくさん作りたい



明石 修 先生

Profile

2003年3月京都大学工学部地球工学科 卒業、2005年3月同地球環境学舎環境マネジメント修士課程修了、2008年3月同地球環境学舎地球環境学博士課程修了。2012年国立環境研究所 客員研究員、2014年武蔵野大学大学院環境学研究所環境マネジメント専攻 准教授、同通信教育部環境学研究所環境マネジメント専攻 准教授、2015年武蔵野大学工学部環境システム学科 准教授。静岡県立浜松北高等学校出身。

フィールドで生態系保全の大切さを伝えたい



伊尾木 慶子先生

Profile

2006年3月奈良女子大学生活環境学部 卒業、2008年3月京都大学大学院農学研究科修士課程修了、2011年9月京都大学大学院農学研究科博士課程修了。2019年武蔵野大学工学部環境システム学科 講師。大阪府立大手前高等学校出身。

今、なぜサステナビリティ学科なのか?

武蔵野大学は2009年、環境学部を開設し、2015年にはそれを工学部へと衣替えし、以来、環境問題を工学的に分析し、その解決策を社会に発信してきた。しかし近年、著しい気候変動などによって社会の状況は様変わりし、求められるものも、環境問題の改善策だけでなく、脱炭素社会や持続可能な社会の実現など、社会全体の改革を促すものへと変化してきた。脱炭素を目指す再生可能エネルギーの導入を例にとれば、気候変動への対応だけでなく、地域の経済循環を生み、ひいては住民の福祉につながるというアピールの方が受け入れられやすい。また、改革を推進するためには、**地域に入り人を巻き込み、コミュニティや社会を変える力の育成が急務となるため**、工学だけでなく、将来の社会を作っていくための《ソーシャルデザイン》の観点を加えた文理融合のカリキュラムが求められる。新学科は、工学に社会科学を取り入れ、この点を明確に打ち出している点が大きな特徴だ。

明石先生、伊尾木先生から高校生へのメッセージ

「学科の特徴を踏まえ、社会を変えたいという強い意欲のある人や、課題研究などで実績のある高校生のために、総合型選抜を初年度から用意している。一般選抜A日程・B日程は、英語が必須だが、「数学と理科(物理・化学)」や「国語と社会」といった組み合わせが可能で、工学部とはいえこれまで以上に文系からもアプラインしやすい。他にも多様な入試方式があり、自分に合った方式を選択しやすい。サステナビリティの推進について学ぶという、社会の方向性と深く結びついた学科だから、実際に何かをやりたいと頑張っている高校生にチャレンジしてほしい」と二人の先生は口を揃える。

カリキュラム編成、教育方法を、社会を変える力を養うという学科のコンセプトにあわせて大幅に刷新します

これまでの大学教育にありがちな、「科目ありき」のカリキュラム編成から、「プロジェクト中心」へと大きく転換する。中心となるのが1年次から3年次までの必修の『サステナビリティプロジェクト』。週に400分、2日間の午後をまるまるこの時間に当て、単位数も従来の2倍を配当する。社会課題の解決を図る実践型と探求型があるが、いずれにおいても、プロジェクトに取り組む中で必要と感じられた知識・スキルを、座学や自習で学ぶという流れだ。もちろんプロジェクト活動に最低限求められる基礎的な知識やスキルは事前に学ぶが、専門分野についての従来型の座学などもすべてここに有機的に紐づける。そのため、プロジェクトに取り組む中で、不足している知識が明確となり、学ぶ意欲も刺激するからインプットの質が上がる。また吸収した知識をプロジェクトでアウトプットするから定着もしやすくなり、学びの好循環が期待できる。

全教員が参加し、様々なテーマを用意するが、ほとんどを、学外で企業との連携の下に行う予定だ。具体的かつ実践的な学びを行うことで、実現に向けての粘り強い調整力や実行力なども身につけることができ、就業力も高められる。

実践的に学ぶという点では、例えばエンジニアリング分野においても、測量、分析手法、設計手法といったスキル系演習科目をこれまで以上に増やす。頭で理解するだけでなく手を動かし、概念・スキルについて、

『サステナビリティプロジェクト』には全教員が参加。多様なテーマが用意され、様々な実践が可能に

例えば明石先生が力を入れているのが、「パーマカルチャー※」と言われる持続可能な農業の実践。すでに、「都市の中で緑や自然とどう共存していくか?」をテーマに大学の屋上を使って自然循環型農業やそのためのコミュニティ作り[写真右上]を実践している。自然とのつながりが希薄となった現代都市、そこに住んだり動いたりする人が、昔のように日常的に自然に触れ、それを身近に感じられる都市の実現を目指す。「これを新学科ではさらに拡大し、東京中に広げたい」と明石先生。そのためのマニュアル作りや、行政に環境整備を働き掛けていくことも学ぶ。「社員が昼休みに屋上へ行ってブルーベリーを収穫できる会社は素敵だし、それが当たり前になる社会はもっと素敵」とも。養蜂も行っている[写真右下]、採取した蜂蜜を商品化する計画もある。また生ゴミを堆肥化する企業と連携して、コミュニティコンポストを設置して地域のゴミを減らす取組も試行している。これらのプロジェクトでは、緑地のデザインや植生などの知識、企業の環境経営、また廃棄物利用についての工学的知識、さらにはコミュニティづくり、ファシリテーションなどが身につく。

コロナ禍で海外との交流は目下中断されているが、その再開に期待するのは、マレーシアのボルネオ島をフィールドに衛星画像や地理情報



をベースとした森林・緑地計画などの研究に関わってこられた伊尾木先生。「学生が実際に現場を訪れる機会を作り、そこで生態系の豊かさや森林保全の大切さについて実感してほしい」と意気込む。他にも、マイクロプラスチックからアクセサリを作り、環境への関心を高める取組なども始まっている。またソーシャルデザイン担当の教員からは、どのように社会を変えるかの具体的な方法が学べる。以上の他にも、都市気象(環境気象学)、環境心理学など多様なテーマが来春の開設に向けて用意されつつある。

※永続(パーマメント)と農業(アグリカルチャー)を繋げた造語。

「知っている」から「使える」レベルにまで高めることを目指す。

ゆるやかな2コース制で、4年間、幅広く学んでほしい

《環境調査、シミュレーション・分析、設計などの工学的手法で環境問題の解決策を検討し、提案する力を身につける》とする「環境エンジニアリングコース」と、新学科の特長を色濃く反映させる「ソーシャルデザインコース」の2コースでサステナビリティを推進する力を身につける。食料、水、エネルギーについての人間のニーズを満た

しながら、環境を保護するなどといったデザイン思考、従来の政策科学や経済学を一步進めたソーシャルデザインを学べることも大きな特徴だ。《多様な人と協働して、サステナビリティを推進する仕組みや、そのために事業のデザインを実行し、実際に社会を変える力を養うことを目指す》。

あえてコースの垣根は低く設定する。《領域を絞り込んで深く》という考え方もあるが、高校段階では本当にやりたいことが固まっていなかったという学生も多いため、学科ではできるだけ広く学べることをアピールしたいという趣旨からだ。



OPEN CAMPUS 2022

TM/© Sesame

武蔵野キャンパス

8/20(土)

有明キャンパス

8/27(土)

Web

11/13(日) 3/26(日)

Webオープンキャンパスサイトもチェックして、武蔵野大学のすべてを知り尽くそう!!

響き合って、未来へ。



世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World



武蔵野大学

Musashino University

LINEはじめました!

オープンキャンパスの情報や入試情報等、あなたが欲しい情報をお届けします♪ぜひ友達登録してください。



16歳から
の
大学論

第32回

「あなたのビジョンは何？」と聞かれて

京都大学 学際融合教育研究推進センター 准教授
宮野 公樹先生

Profile
1973年石川県生まれ。2010～14年に文部科学省研究振興局学術調査官も兼任。2011～2014年総長学事補佐。専門は学問論、大学論、政策科学。南部陽一郎研究奨励賞、日本金属学会論文賞他。著書に「研究を深める5つの問い」(講談社)など。

先日、私のビジョン(目標のようなもの)を書く必要にせまられました。それは、とある研究費獲得のための申請書なのですが、まず私が創出したい地球社会ビジョンを掲示し、その実現のために必要な研究の目的、計画を書きなさい、というものです。

しかし、悲しいかな、私にはキラキラと未来めいた「地球社会のビジョン」はありません。ただ、地球社会の調和のために思想的にも技術的にも必要不可欠であろう「大学」という組織についての憂い、社会にて「学問」することを許された大学こそが、逆に今その「学問」をしづらくなっている状況をなんとか元に戻したいという想いがあります。したがって、<大学にてよりしっかり「学問」ができるようになる>、これを私の地球社会の未来へのビジョンとすることになってしまうわけですが、正直言って、これはなんとも残念としかいいようがありません。

先日、**「論文数、日本は過去最低10位に」という記事が私のタイムラインを騒が**

せていました。以下、毎日新聞の6月14日WEB記事「論文数、日本は過去最低10位に「状況は深刻」科学技術白書」からの抜粋です。

政府は14日、2022年版の科学技術・イノベーション白書を閣議決定した。今世紀の日本のノーベル賞受賞者数は世界2位(19人)となり「大きな存在感を示している」と評価。一方で、影響力が大きな学術論文(被引用数上位10%)の数の国別ランキングで、日本は過去最低の10位に後退し「このような状況は深刻に受け止めるべきだ」と危機感を示した。

この記事を受け、研究者界隈では、研究資金配分の選択と集中による弊害や、アカデミアに競争原理を導入しても効果はマイナス等の意見交換がなされていました。私も基本的にはこれらに同意するものの、「研究者」ではなく「学者」の立場から考えてみるなら、「いったい、いつまで「論文」と

いうものさしに頼っているのだろう」と感じます。「研究力」という単語を、研究者の論文生産能力とみなし、同時に、その質を計測するために、被引用数(他の研究者がどれだけその論文を参照したか。つまり、大勢の関心を集めているか)を用いる。このような評価軸はカウンタブルであるものの、ほんとうに「研究力」というものを論文の量的な生産能力としていいのか?質の評価指数として被引用数でいいのか?それでは今日的な評価に偏りすぎはしないか?等々の問題も伴うことを忘れてはいけません。

我々人間は自覚している以上に評価軸、ものさしに強く縛られる存在です。だからこそ、その評価軸は本当にまっとうなのか、取りこぼしてしまっている要因はないのかとたえず疑い続けることが必要なのです。

先に書いた私の研究申請書のフォームもまた、ある種の評価軸の固定化に関連しています。どの部分か、おわかりでしょうか?それは、研究というものは、何かしらの

良きビジョンがまずあってその実現のために行動するもの、という図式です。これは研究の意味合いを、課題解決として捉えているからこそ生じる構図であり、「とにかく知りたいのだ」という純粋な知的探求には合致しにくい。無理にあてはめようとすると、昆虫の研究を無理やり環境問題と絡めて書いてみたり、天文の研究を宇宙産業と絡めたり、ひいては、源氏物語を今日的ジェンダー論の観点から読み解いてみたりと、少々無理やり感がある文章が生まれがちです。このことから新たな発想は生まれるかもしれませんが、作文力もつくかもしれませんが、これは研究の営みとは別のものであることは、だれの目にも明らかではありません。(続く)

*著者は今、全国の大学組織があつまって学問の在り方を考えるコンソーシアムを立ち上げる準備をしています。考えると同時に動きださないと。

雑賀恵子の 書評

雑賀 恵子

京都薬科大学を経て、京都大学文学部卒業、京都大学大学院農学研究科博士課程修了。大阪産業大学他非常勤講師。著書に「空腹について」(青土社)、「エコロコス 存在と食について」(人文書院)、「快楽の効用」(ちくま新書)。大阪教育大学附属高等学校天王寺学舎出身。



イスタンブールで青に溺れる

横道誠
文藝春秋 2022年

青に溺れるってなんだろう。

著者はどこにいても青い美しいものを探している、という。世界各地を旅した著者は、とりわけイスタンブールで青い美しいものへの嗜好が十分に満たされる。モスクの暗い内壁を光が淡く青色に照らす、上品な荘厳さ。青と青緑とクリーム色がとろけるように混じり合う装飾タイル美術館の入り口…。青の饗宴だ。なぜ青に惹かれるか。それは、著者によると自閉スペクトラム症がある人の傾向らしい。自閉スペクトラム症があると自然界からの吸引力が強まりやすいそうである。空や海の色が青いからかもしれないし、逆に空や海に強く惹かれるので、青が好きなのかもしれない。いま思い出して

も、記憶の中に収まったイスタンブールの青に溺れそうになる、と著者は書く。イスタンブールの記憶は、石原吉郎の詩にある「無防備の空」や「正午の弓となる位置」という言葉となぜか重なる。これもまた、自閉スペクトラム症の「こだわり」だとしている。

そう、著者の横道誠は、自閉スペクトラム症(ASD)と注意欠如・多動症(ADHD)の診断を受けている文学研究者である。40歳の時に受けたこの診断によって、なんだか多くの人と違うようだけれどもといぶかしんできた自分のしっぽを掴むことに成功した、と別のところ(『みんな水の中』医学書院、2021)で述べている。長年いぶかしむということは、世界との関わりがなかで自分が生きる仕方に、他の人たちとの違いを感じて苛立った思いもしてきたのだろう。どうしてなのかということを外から診断されることで、腑に落ち、著者は自分の身体をフィールドとして発達障害というものを考え、当事者研究に踏み込んでいく。それをまとめたのが『みんな水の中』である。

横道は発達障害とされる人たちを



「私たち」と表現しているが、しかし、「健常者/障害者」ときっちり線引きできるものではない。神経発達ということからみれば、人間の脳は多様な形をとる。つまり、定型に属する人もそれぞれ多様であり、定型と非定型はグラデーションとイメージしてもいいかもしれない。「自分」を文化人類学的手法で観察・研究し、哲学や言語学、文学から得たものを入れ込んで、ケア、セラピー、リハビリを見通す。「詩のように」言葉を紡ぐパート、「論理的な」記述で考察するパート、「小説風」のパートの三部構成は、ページの紙が青、白、水色で縁取りした白で塗り分けられている。

「自分」を旅した記録が『みんな水の中』だとすれば、その自分が世界各地を旅した記録が『イスタンブールで青に溺れる』だ。取り上げた25の都市に、色彩が溢れだし、不意に思い出される小説や詩の言葉が散りばめられ、過去の記憶が召喚される。「発達障害者」の世界とのきり結び方のぎこちなさが冷静に分析もする。それらがないまぜになった、これは一体エッセイなのか、評論なのか、小説なのか。

そして、読むものは知的興奮に溺れるのだ。

法政大学の一般選抜の入試制度を紹介します

法政大学では、受験生の皆さんが十分に力を発揮できる入試制度を用意しています。

2科目で受験ができる

T日程入試(統一日程)

3科目で受験ができ、最も募集人数が多い

A方式入試(個別日程)

国立大学併願型で費用負担が少ない

大学入学共通テスト利用入試C方式(5教科6科目型)

1科目で受験ができる

英語外部試験利用入試

私立大学型で得意な科目で受験できる

大学入学共通テスト利用入試B方式(3教科型)

自分にあった入試制度を見つけよう!

各制度の詳細はこちらからCHECK!



お問い合わせ 法政大学入学センター



HOSEI University

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1
TEL 03-3264-9300(直通)

法政 入試

検索

■ 国家公務員総合職試験、女性申込者が過去最高の41%

新型コロナウイルスの感染拡大が続いた2021年度に大学などを中退した学生は前年度よりわずかに減少したものの、コロナ禍を理由に挙げた学生が増えていることが、文部科学省の全国調査で明らかになった。



調査は全国の国公立大学、短期大学、高等専門学校を対象に2021年度末時点の中退者、休学者など学生の就学状況を聞き取った。回答率は96.0%。

それによると、2021年度の中退者数は5万7,875人で、前年度の5万7,913人をわずかに下回った。学生総数に中退者が占める割合は1.95%で、前年度と変化はなかった。このうち、コロナ禍を中退理由に挙げた学生は2,738人。前年度の2,024人に比べ、35.3%増えている。

オンライン授業や学内への立ち入り制限などが続いたせいか、学生生活不適應や修学意欲の低下を理由に挙げた学生も前年度より2.7ポイント増加した。逆に、経済的困窮を理由とする学生は前年度に比べ、9.8ポイント減少している。

一方、2021年度の休学者は6万5,143人。前年度の6万7,034人に比べ、2.8%少なくなったが、コロナ禍を理由に挙げた学生は5,451人で、前年度の4,627人より17.8%増えている。

学生生活不適應や修学意欲の低下を理由に挙げた学生は前年度より2.9ポイント増え、経済的困窮を理由とする学生はほぼ前年並みの0.2ポイント増だった。

■ 共通テスト、スマホ禁止を厳格化 大学入試センター



大学入試センターは1月の大学入学共通テストで試験問題が不正流出したことを重視し、2023年の大学入学共通テストで不正防止策としてスマートフォンの使用禁止を厳格化するとともに、イヤホンの使用を禁止することを決めた。

大学入試センターによると、2023年の試験では、開始前に試験監督者の指示で机の上にスマホ、携帯電話、音楽プレーヤーなどの電子機器を出させ、一斉に電源を切ったあとカバンに入れさせる。さらに、イヤホンの使用禁止と不正行為を確認すれば警察に被害届を出す可能性があることを受験案内などに目立たせて明記し、再発防止の徹底を図るほか、試験会場となる大学側に巡視の強化を求める。

これまではスマホなど電子機器をカバンの中へしまうことを求めているが、タイミングは受験生の判断に委ねていた。1月の不正流出ではスマホのほか、イヤホンも使用されていたことが明らかになっている。試験前に一斉指示の時間を取るが、試験のスケジュールなどに変更はない。

1月の試験では、大阪府の女子受験生が世界史Bの問題をインターネット電話「スカイプ」のチャット機能を通じて外部へ流出させた。女子受験生は大学入試センターの業務を妨害したとして偽計業務妨害の疑いで警視庁から書類送検されたが、事態を重く見た大学入試センターは再発防止に向けて対応策を検討していた。

■ 東京経済大学、約97%の学生がSDGsを知っていると回答 SDGsに関する意識調査を実施

2022年初めに創設された東京経済大学のSDGs学生委員会は4月、SDGsに関する学生の意識調査の結果を取りまとめた。

東京経済大学は、1年前の2021年4月にSDGs宣言を行い、学内での啓蒙活動やSDGsシンポジウムを複数回実施するなど積極的な取組を行っている。

創設されたばかりのSDGs学生委員会は、SDGsに関するアンケートを行い、学部学生・大学院生合わせて1,706名が回答した。「SDGsとは何か知っているか」という質問に対して、1,661名が「知っている」と回答。97%がSDGsを認知していることが分かった。

「現在の大学のSDGsに関する取組みに満足しているか」という質問に対しては、864名が「満足している」と回答し、これは半数に留まった。今後取り組んでほし

いこととして、「SDGsについて学ぶ機会を増やして欲しい」「エコ活動をもっと積極的にやって欲しい」という声が80%近くを占めた。

自身の行動や取組に関する質問に関しては「SDGs活動に積極的に参加したい」「活動に興味がある」と答えた学生は87%に上り、SDGs活動に興味関心を抱く学生が多数いることが判明した。学生たちのSDGsへの意識の高さは大学が行ったSDGs宣言によるところが大きいようだ。

今後も東京経済大学では、大学として学生が中心となってSDGsを推し進めるSDGs学生委員会の活動を支援していく。

■ 埼玉工業大学の自動運転バス、2台で年間走行距離1万キロ以上を達成



埼玉工業大学は、「自動運転技術開発センター」の2021年度(2021年4月～2022年3月末)の活動実績として、自動運転の走行距離が年間合計11,229kmを達成したことを公表した。

2021年度は、2020年度の2,970kmから約3.7倍という大幅な増加で年間走行距離が初めて1万キロメートルを超え、11,229kmとなった。これは東京、福岡間を5往復走行した距離に相当し、国内の大学における自動運転バスとしては最長級の走行距離を達成したことになる。2022年度は、大型バス(レインボーII)とマイクロバス(リエッセII)の2台体制の研究・開発となり、コロナ禍においても各種の実証実験に参加したことによって走行距離が増加した。

走行距離が大幅に増加した一因は、深谷観光バス株式会社と運行した、NHK大河ドラマ「青天を衝け」の主人公ゆかりの地を巡る「渋沢栄一論語の里循環バス」があげられる。業務用の緑ナンバーを取得し、2021年4月1日～2022年1月10日までの長期間にわたり継続的な営業運行を実施しながら、路線のコース内の自動運転区間を最大26kmへと拡大。期間中の走行距離の合計は9531.501kmにもおよび。

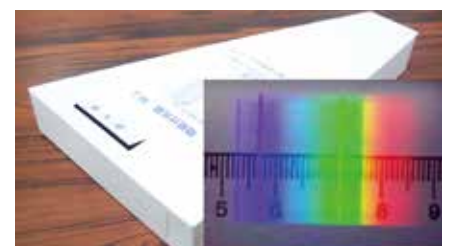
さらに、2021年4月1日～2022年3月31日までの期間、埼玉県外の自治体の自動運転にも協力。栃木県・茂木町と千葉市・幕張新都心の実証実験に参加し、1120.382kmの走行実績を積んだ。

埼玉工業大学では、自動運転バスを開発して3年目となり、これまでに関東地方では1都5県において各種の実証実験に参加し、各地の公道を走行した。今後も自動運転の実用化に向けた各地域の社会実装課題に対して、産官学の協力による課題解決に取り組んでいく。

埼玉工業大学の自動運転バスは、自動運転OSのAutowareをベースに、埼玉工業大学が独自開発したソフトウェアSAIKOカーWareにより、AI技術を積極的に採用して、自動運転レベル4相当を目指して開発を進めている。システムによる自動運転とドライバーによる運転が即時にスムーズに切替え可能で、交通の状況に応じて、安全に一般公道を法定速度で走行できる。

■ 日本工業大学、中高生対象「化学・環境・バイオサイエンススクール」を開催 参加者募集中

日本工業大学基幹工学部応用化学科では、高校生や中学生を対象として、化学・環境・バイオに関する学科独自の実験が体験できる「化学・環境・バイオサイエンススクール」を2022年7月25日(月)に開催する。現在、参加者募集中。



「化学・環境・バイオサイエンススクール」は今回で16回目。化学・環境・バイオへの興味・関心のある高校生や中学生に、基幹工学部応用化学科独自の実験を体験する機会を提供する。4つの実験のうち、一つに参加できる。実験の内容は以下のとおり。

①「鮮やかな金ナノ粒子の世界～見えない指紋を検出しよう～」新倉謙一先生
赤や青の鮮やかな色を呈するため検出試薬として利用されているナノメートルまで小さくした金。実際に赤い溶液の金ナノ粒子づくりを体験し、指紋の検出にもチャレンジする。

②「光を分解してみよう～簡易分光器の製作と実験～」飯塚完司先生
なぜ虹ができるのか?日本工業大学では実験を通して学ぶ「実工学」を推進しており、分光器という装置を製作し、色々な光を観察する体験を行う。なお製作した分光器は持ち帰ることができる。

③「ミニ超電導リニア～超電導体の磁気浮上を目の前で体験してみよう!～」池添泰弘先生
2027年開業予定の超電導リニアでは、車両は線路の上に浮いた状態で時速500キロ以上の超高速運転をする。そのリニアで最も重要な部品が超電導磁石で、これには、日本人が発明した材料が使われている。実験では、超電導磁石に使われる本物のケーブルを使って浮上実験を行う。

④「スパッタリングで鏡を作ろう～プラズマで原子を操作～」渡部修一先生
明るく発光している領域ではプラズマで励起されたいろいろな元素の粒子が運動している。この粒子の中から金属の原子を選んで、それをガラスの上に堆積させ鏡のような表面を創ることができる。これをスパッタリングと言う。実験では、実際にガラス基材の上に薄くアルミニウムの膜を形成してみる。作製した鏡は持ち帰ることができる。

各実験5名程度募集。参加希望の場合、2022年7月21日(木)までに大学のホームページ、または電話(0480-33-7580・応用化学科事務室)で申し込む。参加費無料。

徳島大学は既設の理工学部理工学科を定員増で医工融合人材が切り開く新たな未来構想を打ち出した。理工学科の入学定員は現行の595人から30人増やして625人とする。構想名は「次世代ひかりトクシマ若者雇用計画」とした。

魅力ある地方国立大学の定員増は2020年、中央教育審議会大学分科会や魅力ある地方大学の実現に向けた検討会議で打ち出され、2022年度から募集している。2022年度は採択ゼロだったが、2023年度は5校の応募があり、浜田恵造香川県知事、村田治関西学院大学学長ら有識者6人で構成する審査会で3校を選んだ。

志願者増える国内大学の情報系学部・学科の実態を「みんなのコード」が調査

公教育における情報教育の発展を目指す特定非営利活動法人みんなのコードは、Googleの協力のもと、日本国内の大学における情報系学部・学科の実態調査を実施した。

みんなのコードは、定員が固定化された大学の現状において、情報系学部・学科志願者の増加に対し、大学の受け皿が不足しているのではないかと懸念のもと、「①情報系学部・学科への進学希望者と、入学者定員数の需給バランスの不均衡が発生しているのではないかと」「②女子の情報系学部・学科の志願者・入学者が少なく、ジェンダーギャップが存在するのではないかと」、以上2つの仮説について検証した。

調査によると、国公立大学に絞っても、情報系学部・学科の志望者数は2011年の12,652人に対し、2021年は16,938人と34%増加した。一方、国公立大学前期日程の情報系学部・学科の定員は、2011年の5,087人から2021年の5,064人と横ばいであり、その結果、志望倍率は2.49倍から3.34倍へと上昇。志望者の増加に対する受入定員数が不足していることがわかった。私立大学についても同様の傾向といえる。また、情報系以外の理学部、工学部における女子比率は2011年から2021年にかけて微増しているのに対して情報系は微減していた。

このほか、学校現場や産業界からの情報とあわせ、以下の3つの課題も見えてきた。1つ目は「地域間格差の把握」。今回、国公立大学に焦点を当てて調査を実施したが、私立大学も含めた調査によって地域間格差の全容を把握することが必要だといえる。

2つ目は「情報教育における高校から大学への接続性の確保」。高校と大学での情報教育における学習内容の相互理解が必要。高校の教員が、生徒の適性や興味関心に応じた適切な進路指導ができるようになり、さらに大学の教員が高等学校「情報I」の学習内容を把握した上でのカリキュラム設計が必要となる。

3つ目は「大学での教育内容の充実」。情報系の学部・学科の新設はスタートラインであり、重要なのは学生一人ひとりが充実した学びを実現し、社会に出て活躍すること。そのため、ジェンダーバランスにも考慮した優秀な教員の確保、卒業後も見据えたカリキュラムの設計等が求められる。

2022年6月7日、内閣府は「経済財政運営と改革の基本方針2022」(骨太の方針)を公開。「人への投資」を前面に押し出し、「デジタル化に対応したイノベーション人材の育成等、大学、高等専門学校、専門学校等の社会の変化への対応を加速」「自然科学(理系)分野の学問を専攻する学生の割合についてOECD(経済協力開発機構)諸国で最も高い水準である5割程度を目指す」ことなどを掲げた。

これは先月、高等教育をはじめとする教育の在り方について議論をする政府の「教育未来創造会議」にて取りまとめられた「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について(第一次提言)」の内容を反映しているもので、政府としてもデジタル人材が不足していること、諸外国と比較して全体的な理工系の入学者の割合が低いことなどに懸念を抱いていることが分かる。

具体的な今後の対策として、デジタル等の成長分野への大学の再編・統合・拡充を促進する仕組みの構築、成長分野における定員増等が挙げられ、みんなのコードでは、今回の調査で明らかになった情報系学部・学科の需給バランスの不均衡を改善するものと期待を寄せている。

学生が選ぶインターンシップアワード、文部科学大臣賞に大東文化大学



2022年5月17日、第5回学生が選ぶインターンシップアワードの表彰式が、東京都千代田区大手町の日経ホールで開かれ、文部科学大臣賞に選ばれた大東文化大学の「大東文化大学インターンシッププロジェクト」が表彰された。大賞はボッシュ株式会社の「オンライングローバルインターンシップ2021」だった。

第5回学生が選ぶインターンシップアワードは544法人・645プログラムと過去最多の応募があった。大東文化大学は2021年度に全学プロジェクトとして実施したインターンシッププロジェクトが、優秀賞に加え、「文部科学大臣賞」の栄誉に輝いた。企業29社と共同で実施したインターンシップで、学生が平等に就業体験を受けられるよう工夫したことが高い評価を受けた。

大賞を受賞したボッシュ株式会社のオンライングローバルインターンシップ2021は、第1回アワードで優秀賞を受けたグローバルインターンシップをオンラインで実現したプログラムで、オンラインでも海外にいる社員と学生の距離感を大切に、対面以上の効果を得られるよう工夫した点が評価された。

このほか、優秀賞は三菱ふそうトラック・バス株式会社、株式会社ミルボン、地方創生賞は滋賀県の株式会社いろあわせ、入賞は株式会社カタヤマ、静岡県立大学、徳島大学、株式会社星野リゾート・マネジメント、株式会社麦の穂・相山女学園大学が選ばれた。

魅力ある地方国立大学に島根大学、広島大学、徳島大学を選定 2023年度に定員増

文部科学省は2023年度の魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学に島根大学、広島大学、徳島大学を選んだ。全国5大学が申請した中、審査会が地方創生の実現に値すると判断した結果で、3校は2023年度、30～80人の定員増が認められる。

文科省によると、島根大学は材料エネルギー学部材料エネルギー学科を新設し、産業変革を推進する構想を打ち出した。2023年度の入学定員は80人。材料エネルギー学部を大学改革とエネルギー改革、島根創生の3つを実現する中核と位置づけている。

広島大学は既設の情報科学部情報科学科の定員を増やし、デジタル化推進人材が切り開く地方創生構想を提案した。情報科学科の入学定員を現在の80人から150人に広げ、国のデジタル田園都市構想を広島から牽引するとしている。

日本の大学・教育関連専門のニュースサイト

大学ジャーナル

UNIVERSITY JOURNAL

ONLINE

その他の詳しい大学関連ニュースは

大学ジャーナルオンライン

SEARCH



@univjournal



大学ジャーナルオンライン

2017年、社会学の学びを軸に、多様な価値観を容認する社会の実現に寄与する次世代リーダーの育成を目指し開設された京都産業大学現代社会学部。多様な科目と実践を重視した学びに加えて、個性的な教員の存在も大きな特長。KBS京都(京都の地元局)のTV番組「京の水ものがたり」で案内人を務める鈴木康久先生もその一人。京都府職員時代から水文化を研究し、『京都名水辞典』の編纂などを目標にしてきたという。大学教員への転身について、府職員としての経験とネットワークを活かした実践的なゼミについて、また高校生へのメッセージを伺いました。

生涯探究。 まずは自分が楽しいと 思えることに夢中になろう

100年残る仕事をしたかったから

修士課程を終えるまで、愛媛大学の農学部で、現在は地域環境工学と呼ばれる分野の研究をしていました。当初から水に関心があったわけではなく、水文学を研究している先生の研究室を選んだのがきっかけとなりました。当時は、水よりも歴史に関心があったことを覚えています。

大学院修了後は京都府に入庁、30年ほど勤務しました。

自分で立ち上げた農村の過疎対策のプロジェクトで、当時はまだ珍しかった農村への移住政策に携わり、「京の田舎ぐらし・ふるさとセンター」を立ち上げました。大学教員に転職する最後の年は国立公園のビジターセンターの計画策定を行っています。一番長くいた部署では10年間、地域のまちづくりに携わりました。そのため今でも、まちづくりは得意な分野です。自分の提案が実現し、多くの人や企業と様々なプロジェクトを協働で行うことは、楽しくやりがいのある仕事でした。

仕事の中で大学の先生とも知り合い、本を執筆、出版する機会にも恵まれました。

本はまちづくり、社会企業、グリーンツーリズムなど、これまでの業務経験を活かしたものや、水関連では水文化好きが集まって発足した「カップ研究会」での活動成果をまとめたものなどがありま



す【写真上】。そんな中で、大学の非常勤講師も務めました。公務員として働くかわら、プライベートで研究して本を書くといったライフスタイルが定着していきます。

50歳の頃、恩師との再会を機に博士論文の執筆を始めます。仕事は自分のしたいことができるようになるなど脂がのっていましたが、自分が手掛けた政策でも、状況が変わると見直され残らない。常々100年残る仕事をしたいと考えていたので、それなら関心のある名水辞典や河川通史をつくるしかない。なぜならその成果には、水好きな人が100年後も必ず目を通してくれるだろうから。そう思い研究者に転身することを決断しました。

「成功体験」を味わい「協働」するゼミ

ゼミ生時代、直接指導されていない物事の方や捉え方まで指導教員の影響を受けていることを思い返して、ゼミ生の指導には特別力を入れています。

中でも、知識や考え方を学んでもらう

のに加えて、社会に出る前に「成功体験」を味わい、「協働」する経験を積んでもらうことを重視。そのため授業では、5名程度のチームに分かれて行うプロジェクトに取り組んでもらっています。

テーマは、4回生は自由に選べますが、ゼミに入ってきたばかりの3回生には、私が用意したものの中から一つを選んで、1年間取り組んでもらいます。公務員時代のネットワークを活かし、企業や行政と協働で行うテーマが中心です。私が企業や行政との間に入るのは導入段階だけ。アイデアの立案からプレゼンに至るまで、細かい学外との調整も含めすべて学生が行います。2020年には、久御山町から、地域の焼肉店やラーメン店を紹介するパンフレットの作成を、京都市からは、豊田秀吉が架設した三条大橋をアピールするためのポスター作りを依頼されました【写真下】。このポスターは、地下鉄の駅やバス500台に掲示されました。さらに、有名酒蔵にお願いし、ふるさと納税の返礼品としての日本酒のラベルにもなりました。更にクラウドファンディングで三条大橋をPRするヒノキの和精油やクリアファイルづくりを進めています。



今年度からは新たに、社会に水の大切さを知ってもらうために『水の聖地』づくりや、脱炭素社会の実現に直結する小水力発電の全国大会への参加も予定しています。

社会に何かを訴えかけるものを作り、

京都産業大学 現代社会学部 現代社会学科 教授
鈴木 康久 先生

Profile

1985年愛媛大学大学院農学研究科修了。1985年4月から2017年3月まで京都府職員。府民生活部地域力推進課長、環境部自然環境保全課長等を歴任。この間、京都府NP Oパートナーシップセンターの設立運営にも携わった。2017年4月から現職。京都府立東舞鶴高等学校出身。

それが大学広報を始め、新聞やテレビなどに取り上げられて社会に認められれば嬉しいし、力を出し切って、人の役に立てたという経験は「成功体験」になります。

また社会に出れば、自分一人で仕事をするのは少なく、同僚や他の組織の人たちと一緒にすることがほとんど。チームで学外の人たちと行うプロジェクト活動などは、「協働」そのものですし、学外の連携で学んだことは自信につながると思っています。

高校生へのメッセージ

目の前の楽しいことを追求してください

探究するテーマやトピックは、たまたま目にした楽しそうなものでもいいと思います。私の場合は水でしたが、今ならそれがロボットや和菓子になっていたかもしれません。大事なことは、そのきっかけを逃がさないこと。楽しいことを続けていけば、自分のやりたいことが無理なく言葉で伝えることができ、思いが実現できる日が巡ってきます。

立派な設備を用いた実験や、海外でのフィールドワークだけが研究ではありません。文献を読み、調査結果を地道にまとめていくやり方も、楽しいことを追求するという点では何ら変わりません。公務員時代、水文化の研究は《仕事》ではありませんでしたが、楽しいという理由だけで続けてこられました。

続ける中で、学び、調べたことを形にして他人に見てもらおう、またそういう場を見つけることも大事です。ゼミでも、半期ごとに京都に関するレポートを提出してもらうのはそのためです。高校生対象のコンテストも今はたくさんあると思います。目標があれば一生懸命取り組める。楽しいと思えるものと出会ったらそれを追求し、チャンスを見つけて、まとめたことを発表してみるといいと思います。



むすんで、うみだす。
京都産業大学
KYOTO SANGYO UNIVERSITY

- 経済学部
- 経営学部
- 法学部
- 現代社会学部
- 国際関係学部
- 外国語学部
- 文化学部
- 理学部
- 情報理工学部
- 生命科学部

OPEN CAMPUS 2022

7/24 SUN | 8/6・7 SAT SUN | 9/4 SUN

事前申込(定員あり)
高校生の方ももちろん、保護者の方もご参加いただけます。

今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況によって、開催の日時を変更もしくは中止することがあります。参加前には必ず入試情報サイトをご確認ください。

入学センター

〒603-8555
京都市北区上賀茂本山
TEL 075-705-1437

京都産業大学 検索